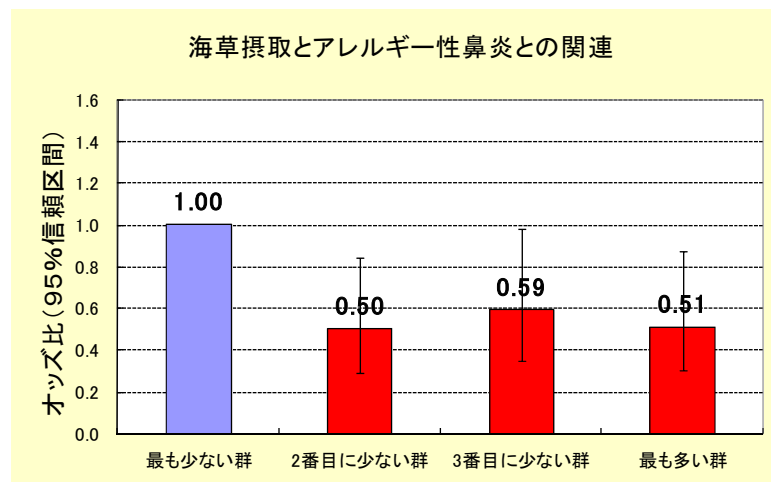


大阪母子保健研究ベースラインデータの結果 海藻・ミネラルの摂取とアレルギー性鼻炎との関連

背景：近年、日本では、特に都市部でのアレルギー性鼻炎が増加しており、生活習慣の西欧化に関連した因子との関連が指摘されています。そこで、伝統的な日本の食生活がアレルギー疾患に予防的であるかについて検討しました。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査に参加した1002名の妊婦さんを対象としました。最近1年の間にアレルギー性鼻炎（花粉症も含む）の投薬治療を受けた場合をアレルギー性鼻炎ありと定義しました。交絡因子として、年齢、ベースライン調査時妊娠週、子数、喫煙状況、家庭内及び職場での受動喫煙状況、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎の家族歴、屋内のペット、家計の年収、教育歴、寝具のダニ抗原量、BMI、過去1ヶ月の食事変容、季節を補正しました。

結果：摂取量によって4等分すると、最も少ない群に比較して、2番目及び3番目に少ない群及び最も多い群では、アレルギー性鼻炎の有症率が有意に低くなりました。カルシウムやリンの摂取についても、多く摂



っている人ほど、アレルギー性鼻炎の有症率が有意に低くなりました。マグネシウムについては、多く摂っている人ほど有症率が低くなる傾向がありました。野菜、果物、ビタミンC、ビタミンE、食物繊維、亜鉛の摂取とアレルギー性鼻炎との間には有意な関連は認めませんでした。一方、βカロテンの摂取とは、有意な正の関連を認めました。

結論：今回の研究で、海藻、カルシウム、リンの摂取がアレルギー性鼻炎に予防的であるのかもしれないことが、初めて示されました。

出典：Miyake Y, Sasaki S, Ohya Y, Miyamoto S, Matsunaga I, Yoshida T, Hirota Y, Oda H; The Osaka Maternal And Child Health Study Group. Dietary intake of seaweed and minerals and prevalence of allergic rhinitis in Japanese pregnant females: baseline data from the Osaka Maternal and Child Health Study. *Ann Epidemiol.* 2006; 16: 614-621.